

■首都圏の土壌の放射性セシウム濃度(数値はBq/kg)

試料採取地	濃度	採取日
東京 千代田区二重橋横	1904	4月10日
千代田区皇居東御苑 天守閣跡	1311	4月10日
中央区築地	1147	4月10日
江東区亀戸	3201	4月16日
埼玉 朝霞市荒川土手	484	4月10日
千葉 千葉市千代田駅前 千葉モーターランド	1327	4月11日
千葉市J駅駅前	358	4月14日
R千代田市	127	4月20日
茨城 神栖市	455	4月20日
福島 福島市光が丘	27650	3月19日

東京、一部で高濃度

土壌セシウム、茨城超す

東京都の土壌で放射性セシウムの濃度が1キロあたり3千Bqを超え、東京電力福島第一原発により近い茨城県より高い地点があることが、近畿大の山崎秀夫教授(環境解析学)の調査でわかった。

濃度は高い場所でも福島市の9分の1ほどだが、茨城県や埼玉県の一部の2〜6倍。放射能による土壌汚染は、原発からの距離が同じでもばらつきが大きいことが指摘されてきた。

東北3県と関東6県は、農林水産省の指導で水田や畑のセシウム濃度を調べているが、都是事故後の土壌調査をしていない。

山崎教授らは、4月10〜20日に採取した東京都の4地点を含む首都圏の土壌試料を分析した。

東京都江東区亀戸で1キロあたり3201Bq、千代田

区の二重橋横で同1904Bqだった。原発から約55キロの福島市南部(同市光が丘)の土壌は同2万7650Bq。都内より福島に近い茨城県神栖市は同455Bq、ほぼ同距離の埼玉県朝霞市は484Bqだった。放射性ヨウ素も同様の傾向だった。

単位面積あたりに換算して農水省などの調査と比べると、都内の土壌の放射性セシウム濃度は稲作禁止の制限値の20分の1以下だが、1960年代の大気圏内核実験で年間に降った量の3〜10倍あった。

山崎教授は「放射性物

質を多く含んだ雲のようなもの(ブルーム)が飛来した地点では、局地的に土壌の放射能が高濃度になる。首都圏でも細かい状況調査が必要だ」と話す。

京都市である国際分析科学会議の緊急シンポジウムで24日発表する。

(鍛冶信太郎)